

大般若無事終了

六月二十日に挙行されました大般若法要は150名の檀信徒のご参拝をいただき無事終了いたしました。参加者は、大般若の風にあたり、ご先祖の供養にお焼香をして、終了後、お料理、お酒、お煎餅、散華をいただいて功德を積まれました。



毎年大般若法要は六月二十日に行われています。家内安全、諸災消除祈願と先祖供養の、年に一度の大法要ですので、ぜひ来年もご参加いただき、大般若の功德をいただいでください。

瑞應寺だより(恭真)

愛媛県新居浜の瑞應寺に修行中の三男恭真のこと。

四国の道場へ修行に行ってからもうすぐ一年半になるうとしていきます。まだ一度も帰ってきていません。手紙が何度か来ました。元気で暮らしているようで安心しています。

平成二十二年度春安居者五名が「仏祖正伝の袈裟法によりて作法すべし」の祖訓にならい、一針一針返し縫いで七条袈裟、坐具を裁縫。五月三十一日と六月十五日の略布薩時、授衣作法をして頂き、自ら裁縫の御袈裟を掛け、功德無量、不退并道精進を誓った。と瑞應寺報「銀杏」に掲載されています。住職の檜崎通元老師は、「二千五百年前にお釈迦様は自らお袈裟を縫い、弟子達にもお袈裟を縫わせていました。お袈裟は世間の衣服と違い装飾類ではありません。離欲衣であり、福田衣であり、解脱服なのです。私たちが縫う辿々しい一針は道元禅師が縫われた一針であり、お釈迦様が縫われた一針なのです。」と記しています。恭真は誠に有り難い功德を積んでいます。

迦葉山だより(秀孝)

群馬県沼田市の迦葉山で修行中の二男秀孝のこと。

永平寺を昨年十月に下りて、四月末から天狗のお寺で頑張っています。迦葉山はご祈禱のお寺です。毎日祈願を申し込まれる信者の方が訪れます。八月には沼田まつりがありました。迦葉山の天狗面みこしが有名です。住職が永平寺で修行中にお世話になった先代大島恭龍老師(当時永平寺の監院職)は平成二十五年に三十三回忌を迎えます。現住職の羽仁素道老師は永平寺の顧問であり、曹洞宗の参議というお役をお務めの方です。しばらくはここで僧侶としての指導を受けます。

梅花だより

当寺練習会

九月 八日(木) 午後一時

九月 二十日(火) "

十一月 八日(火) "

宗務所講習会

十月 十四日(金) 於広厳寺

「密厳流御詠歌に学ぶ」

講師 長野県松本市

真言宗智山派 王徳寺住職

中島宥榮師範

宗務所検定会

十一月二十八日(月) 於広厳寺

仏事の知識

畳の暮らし

広厳寺本堂の畳は百畳ほどです。永平寺はその倍以上あるでしょう。最近の新しい住宅は昔のような床の間があったり、畳の敷かれた部屋が少なくなっています。昔の人はよく言いました。畳の上を歩くときは、敷居を踏まないこと。敷居をいつも踏んでいると敷居が曲がり、襖や障子戸が閉まらなくなる。また、畳の縁(へり)を踏まないようにと教えられました。いつもへりを踏んでばかりいると畳の糸が切れるそうです。由緒ある寺や旧家は畳のへりに寺紋、家紋がほどこされています。その寺紋や家紋を踏むことにもなるからです。法要の時に大勢の僧侶が本堂の中心部でぐるぐる周りお経を上げることがあります。遶行(ようぎょう)と言います。その時も決まって畳のへりは踏みません。そして、ゆっくりすり足で歩きまわります。昔からの作法が現代では忘れ去られようとしています。寂しいかぎりですね。